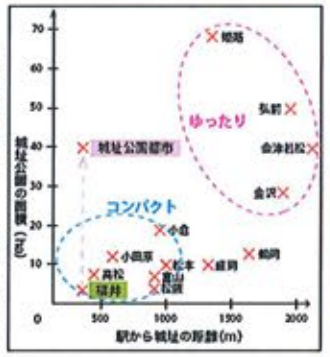
城址公園都市

歴史資源である福井城本丸跡の石垣と庭を中心に，公園，業務，商業，住居等が共存する対象地は，鉄道駅にも近く機能が集約されたコンパクトな形態であるが故に，一方で，憩いの場としての豊かさに欠ける。そこで，本計画では，対象地区全体を「城址公園」に見立て，城址の同心環構造を活かしながら，多様な「緑」と「公共的な空間」を配しつなげていくことで，公園の中で人々が歴史に触れ，憩い，住まい，創り，学び，働くような「城址公園都市」を提案する。
県都の顔としての本丸跡は，福井県の誇生のショーケースのような現代的な庭園とし，南西の業務エリアには，創造拠点・市役所・モビリティステーションを起点に天候に左右されず屋内外を貫通する緑の通路を巡らせ，北東の住居エリアでは，共有の広場や駐車場を設け環境調整装置としてのバックガーデンで住宅をつなげる，さらに，城郭や街路には憩いや賑わいの機能を持たせ，結節点にはマルシェや大浴場などの集まりの場を設ける，これらによって，観光客，居住者，就労者，来街者が無理なく共存する「城址公園都市」を計画する。

■福井城址の特徴

分析：城址公園の比較
近世までのまちと近代のまちの重なり方によって，城下町の現在の都市構造は大きな影響を受ける。公園を持つ他の城址（人口 10万～50万人程度の都市）と比較すると，対象地の「福井城址周辺地区」は，駅に近く公園面積が小さい，公共交通アクセスが良く機能が集約されたコンパクトな形態である一方，憩いの場としての豊かさに欠けると言える。

提案：対象地区全体を「城址公園」に見立てる
そこで，本計画では，中央公園や本丸跡だけではなく，対象地区全体を城址公園に見立て，コンパクトで多機能でありながら，広い「公園」面積を確保する，多様な「緑」と「公共的な空間」を適切に配しつなげていくことで，公園の中で人々が憩い，住まい，創り，働くような「城址公園都市」を提案する。



■空間構造

分析：環郭式城郭構造
福井城は，本丸を中心として二の丸，三の丸，外郭を配した環郭式城郭であった。さらにその外側の西と北を横町町割の北国街道が囲み，同心環状の構造を持っていた。敵対・震災復興で過されたフェニックス通りや中央大通りなどの広幅員道路は，城下町の構造とは異質のグリッド構造を持つため，現在では城址の同心環構造は感じ取りにくい。

出典：「福井城下図屏風」福井市立郷土歴史博物館

提案：同心環とそれを貫く放射軸
都市全体構造が大通りの骨格で作られているのに対して，中心市街地の限られた範囲内では回遊性が望まれる。大域的には近代の戦災・震災復興事業の構造を活かしつつ，局所的には近世の城址・城下町の構造を活かすために，本計画では，街の中に同心環構造を見出し強化することで，徒歩などの比較的ゆっくりとした移動で幾重にも環状に巡ることができるまちを提案する。
城址周辺地区は，四周を回む広幅員道路の「殻」の内側に隠され，県都の顔となるべきこの地区の姿が見えにくくなっている。そこで，「殻」に覆われた環状構造に四方放射方向の軸を穿つことで，視覚的，動線的に周囲とのつながりを作り出す。

■周囲との関係

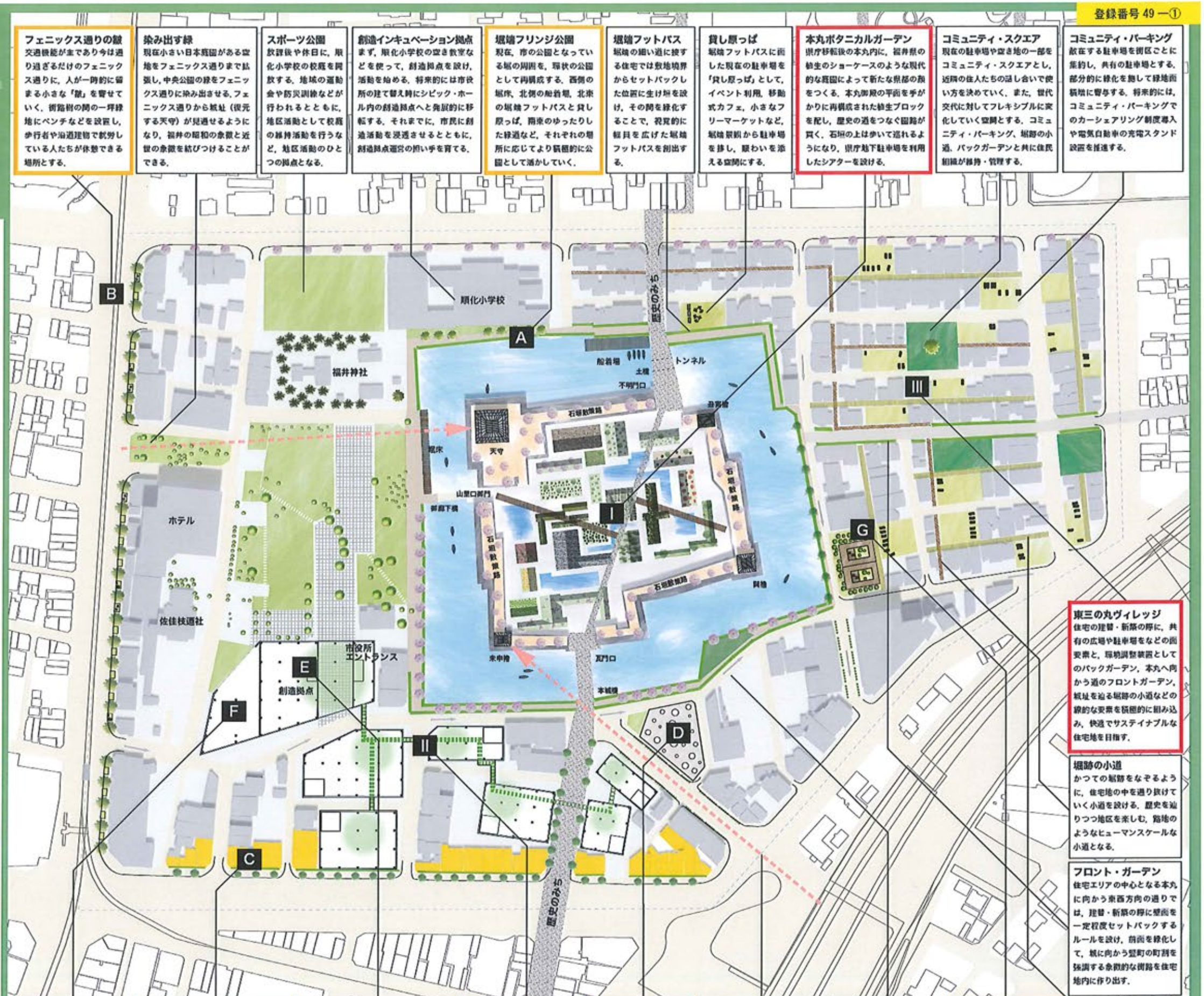
分析：県都デザイン戦略における対象地区の空間的位置づけ
県都デザイン戦略から対象地区と周辺市街地との関係を見ると，福井駅・商業ゾーンとの結びつき，歴史の道のつながり，公共交通等の活用，足羽山・足羽川からの連続性などが見いだせる。

提案：視線・動線・交通のつながり
そこで，本計画では，図に示すように，視線でつなぐ（眺望の確保），動線でつなぐ（歩道拡幅やペイヴメントの統一），交通でつなぐ（公共交通，自動車交通でのアクセスを容易にする）といった考え方で，それぞれ周辺市街地との関係を強化し，県都の顔に相応しい存在感のある福井城址周辺地区を目指す。

■中心市街地における自動車交通

分析：駐車場調査
資料調査と現地調査をもとに，対象地区内の 1980 年と 2013 年の駐車場の分布を地図に示す（1980 年は平面・立体の区別無し）。約 30 年間で地区内の駐車場面積は大幅に増加し，中心市街地であるにもかかわらず，対象地区は駐車場に多くを占められていることがわかった。市役所を中心とした南西エリアでは大規模立体駐車場が多く，東側の居住エリアでは大小の平面駐車場が街区を浸食している。地区全体として歩行者が非常に少ない。

提案：自動車依存度を緩やかに下げる
本計画では，散在する駐車場を集約して共有する住宅地のコミュニティ・パーキング，降水量の多い地域で天候に左右されず中心市街地を巡ることのできるグリーン・ネックレス，自動車で中心市街地を訪れより小さな交通に乗り換えるモビリティ・ステーション&スタンドなどを提案することで，緩やかに中心市街地の自動車依存度を下げ，穏やかな賑わいのある福井城址周辺地区を目指す。



フェニックス通りの鼓
交通機能が主であり今は通り過ぎるだけのフェニックス通りに，人が一時的に留まる小さな「鼓」を奪せていく，街路樹の間の一坪緑地にベンチなどを設置し，歩行者や沿道建物で就労している人たちが休憩できる場所とする。

染み出す緑
現在小さい日本庭園がある空地をフェニックス通りまで拡張し，中央公園の緑をフェニックス通りに染み出させる，フェニックス通りから城址（復元する天守）が見通せるようになり，福井の昭和の象徴と近世の象徴を結びつけることができる。

スポーツ公園
放課後や休日に，順化小学校の校庭を開放する，地域の運動会や防災訓練などが行われるとともに，地区活動として校庭の維持活動を行うなど，地区活動のひとつの拠点となる。

創造インキュベーション拠点
まず，順化小学校の空き教室などを使って，創造拠点を設け，活動を始める，将来的には市役所の建て替え時にシビック・ホール内の創造拠点へと発展的に移転する，それまでに，市民に創造活動を浸透させるとともに，創造拠点運営の担い手を育てる。

堀端フリンジ公園
現在，市の公園となっている堀の周囲を，環状の公園として再構成する，西側の堀床，北側の船着場，北東の堀端フットパスと貸し原っぱ，南東のゆったりした緑道など，それぞれの場所に応じてより積極的に公園として活かしていく。

堀端フットパス
堀端の細い道に接する住宅では敷地境界からセットバックした位置に生け垣を設け，その間を緑化することで，視覚的に幅員を広げた堀端フットパスを創出する。

貸し原っぱ
堀端フットパスに面した現在の駐車場を「貸し原っぱ」として，イベント利用，移動式カフェ，小さなフリーマーケットなど，堀端景観から駐車場を排し，賑わいを添える空間にする。

本丸ボタニカルガーデン
県庁移転後の本丸内に，福井県の誇生のショーケースのような現代的な庭園によって新たな県都の顔をつくる，本丸御殿の平面を手がかりに再構成された誇生ブロックを配し，歴史の道をつなぐ回路が貫く，石垣の上は歩いて巡れるようになり，県庁地下駐車場を利用したシアターを設ける。

コミュニティ・スクエア
現在の駐車場や空き地の一部をコミュニティ・スクエアとし，近隣の住人たちの話し合いで使い方を決めていく，また，世代交代に対してフレキシブルに変化していく空間とする，コミュニティ・パーキング，堀跡の小道，バックガーデンと共に住民組織が維持・管理する。

コミュニティ・パーキング
散在する駐車場を街区ごとに集約し，共有の駐車場とする，部分的に緑化を施して緑地面積増に寄与する，将来的には，コミュニティ・パーキングでのカーシェアリング制度導入や電気自動車の充電スタンド設置を推進する。

東三の丸ヴィレッジ
住宅の建替・新築の際に，共有の広場や駐車場などの面要素と，環境調整装置としてのバックガーデン，本丸へ向かう道のフロントガーデン，城址を辿る堀跡の小道などの線的な要素を積極的に組み込み，快適でサステイナブルな住宅地を目指す。

堀跡の小道
かつての堀跡をなぞるように，住宅地の中を通り抜けていく小道を設ける，歴史を辿りつつ地区を楽しむ，路地のようなヒューマンスケールな小道となる。

フロント・ガーデン
住宅エリアの中心となる本丸に向かう東西方向の通りでは，建替・新築の際に壁面を一定程度セットバックするルールを設け，前面を緑化して，城に向かう竪町の町割を強調する象徴的な街路を住宅地内に作り出す。

モビリティ・ステーション
フェニックス通りからの人や車のアクセスを受け止め，自転車，シニアカー，超小型パーソナルモビリティなど，より小さな交通具に乗り換える拠点，周辺地区のモビリティ・スタンドとネットワーク化されている。

中央大通りのアクティブ・ファサード
業務系のビルが建ち並ぶ中央大通り北側に面した建物の 1 階部分をガラス張りにし，1 階部分を執務空間や会議室として積極的に活用することを提案する，都市の活動が見える活気ある街路づくりと，まちなかで働くライブ感のある就業環境を実現する。

シビック・ホール
現市庁舎建て替えの際に，市役所，創造拠点，モビリティ・ステーションが複合したシビック・ホールを新設する，1 階は中央公園の歴史のプロムナードを引き込んだアトリウムを各機能が囲む，公園と一体的に使われる創造拠点，フェニックス通りから交通を引き込む MSn は低層階，市役所は中層階以上に配される。

グリーン・ネックレス
業務エリアで一定規模以上の建築物の建て替えルールを決め，1 階部分に屋内公開空地や公共用通路などの公共的な屋内空間を設け，検討をつなぐ緑の屋根を設ける，これによって，天候に左右されずに屋内外を貫通する緑の通路を張り巡らせる。

集いのマルシェ公園
駅，城址本丸，居住エリアの結節点に大きな屋根のかかったオープンなマルシェをつくる，福井の豊かな食とものづくり文化の発信の場となり，観光客も住人も楽しめる新しい集まりの場とする。

県庁線
駅から近いにもかかわらず，現在は駅前から城址を眺望することができない，そこで，城址石垣南東角の未申櫓を復元し，県庁線の街路樹を低木に変更することで，駅前から福井城址への眺望を確保し，駅に降り立った人を城址に導くような県庁線とする。

道路空間の再配分
堀の南及び南東側では，道路空間の再配分をして，車道を減らし一方通行とし，自転車専用レーンを設け，歩道を拡幅する，歩道にはベンチを設ける，冬季は，自転車専用レーンは，雪除けの場所として活用される。

木漏れ日の大浴場
居住エリア・宿泊施設の集積エリア・本丸城址の間に位置し，居住者，観光客，宿泊客，ジョギング愛好者などの利用に供する入浴施設，中庭に面した浴室やまちのサロンとしてのホールをもち，ゆったりとした交流拠点になる。

バック・ガーデン
街区中心の住宅が背中合わせになっている部分に線状のバックガーデン（共有眺望）を設け，ガラスの屋根をかけて，住宅の環境調整装置とする，コミュニティ・パーキングから住宅まで雨や雪に濡れないで移動できる。

scale 1/2000